

佳作

大きな夢に続く一歩

福島県立会津学鳳中学校

2年 長谷川 紗保

私の夢は、女性としては少し珍しいかもしれませんが、それは、消防士になることです。消防士は火災や水害、地震などの災害現場で人命を救う、大切に責任の重い仕事です。力強い男性の姿を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、私は、女性消防士はまだ少ないからこそ、きめ細やかな対応で現場に新しい力をもたらせることができると考えています。

この夢をもつきっかけは、小学3年生の夏に体験した出来事でした。その年、私は大好きだった祖父を水難事故で亡くしました。祖父は自然が好きで、よく私をいろいろなところへ連れて行ってくれました。しかし、足を滑らせ転倒し、帰らぬ人となってしまいました。あまりに急な出来事で、私は何もできず、ただ悲しむことしかできませんでした。その後もずっと「もし誰かが助けてくれていたら」「自分に力があったら」と思わずにはいられませんでした。

その気持ちは、成長するにつれ、「誰かの命を守る存在になりたい」という思いに変わっていきました。これが私の夢の原点です。

もう一つ、私を支えている経験があります。それは水泳です。私は小さいころから水泳を続け、中学生になった今でもほとんど毎日練習を欠かさず行っています。その努力が実を結び、最近では県大会で優勝することが増えてきました。優勝はもちろんうれしかったのですが、それ以上に「努力を重ねれば結果につながる」ということを体で実感できたことが大きな収穫でした。水泳は体力や持久力を鍛えてくれるだけでなく、集中力や冷静な判断力も育ててくれます。これは消防士に必要な力と重なりますし、特に水難救助では泳力が大きな力になると考えています。祖父を失った私だからこそ、水泳をとおして得た力を人の命を守るために生かしたいと思うのです。

もちろん、消防士に必要なのは体力や泳力だけではありません。火災や災害の現場では冷静な判断と知識が不可欠です。私の知り合いに消防士がいて、仕事でのちょっとした知識や緊急時の対応の方法などを教えてもらいました。こうした知識はすぐに役立つものではないかもしれませんが、少しずつ身につけることが将来の自分を支える力になると信じています。

消防士という職業は厳しい世界です。危険な現場に立つことも多く、人命をあずかる責任はとても重いものです。さらに、女性の消防士はまだ数が少なく、「大変すぎるのでは」と言われることもあるかもしれません。それでも私は、

この夢をあきらめるつもりはありません。なぜなら、女性だからこそできることもあると思うからです。細やかな気配りや相手の気持ちに寄り添う力は、救助や避難の場面でも必ず役に立つと信じています。

では、今の私にできることは何か。私は三つのことを意識して取り組んでいます。第1に、体力づくりです。毎日のスイミングや筋トレは小さな積み重ねですが、確実に自分を強くしてくれます。第2に、学び続けることです。学校の授業や本を通じて知識を深め、良い消防士となるように心がけます。第3に、心の準備です。祖父を失った経験から「命の重さ」を実感しました。その記憶を忘れず、人を守る覚悟を持ち続けたいと思っています。

夢はすぐにはかなうものではありません。けれども、夢に向かって踏み出す小さな一歩を重ねることで、必ず近づいていけるはずです。水泳で県大会優勝できたのも、一度の努力ではなく毎日の練習を続けた結果でした。消防士になる夢も同じで、今の小さな一歩一歩が大きな未来につながると信じています。

将来、私は女性消防士として現場に立ち、火災や地震だけでなく、水難事故でも人の命を守れる存在になりたいです。祖父を救うことはもうできません。しかし、これから出会う誰かの祖父母や家族を守ることができる。そのために今日も努力を重ねていきたいです。

大きな夢は遠くにありますが、小さな一歩は今日から踏み出せます。私はこれからもチャレンジを続け、いつか振り返ったときに「中学生のときの努力が今の自分をつくった」と言えるような人生を歩みたいと思います。そして、その先に人の命を守る女性消防士としての姿があることを信じています。祖父を救うことはできなかったけれど、誰かの命を守ることで、その悔しさを希望に変えていき、夢への小さな一歩を歩んでいきたいです。